



改正
繪入

南都名所記

二月堂 觀世音菩薩
大佛殿 建立緣起
興福寺伽藍造立

大和歌名所舊跡古
春日社 勅法
東大寺古社奉書

千厓文庫
文庫24
A950



奈良八景



▲南都横沢の池ハ春日明神の池カミの池ナリ 大の帝ニ

使ふ事つらう様おといふ事ハ若とうみまのせは池うく

ひましくなる。天皇いとあられおほくわしやうに所事ありて

へにみ海せあふる沢の池もつらふはれとがむそくみえをひひ

▲末女宮いけの西のうにあり ▲夜樹柵 じよあまこおけし

夜とくけし柵をり池の東にあり ころ沢の池の柳やこはもこが

杯をれかこのかみなるゆらん ▲浅香山池より東成身渡の

うろ松のせくる山といふわらう山うびいへんゆれ山の井の

あいにいんを担りかみのうハ ▲楊貴妃様せんせんいあへ良後

寺に雲宗といふ傍のてうわいーあこころうたうのゆかくあつけり

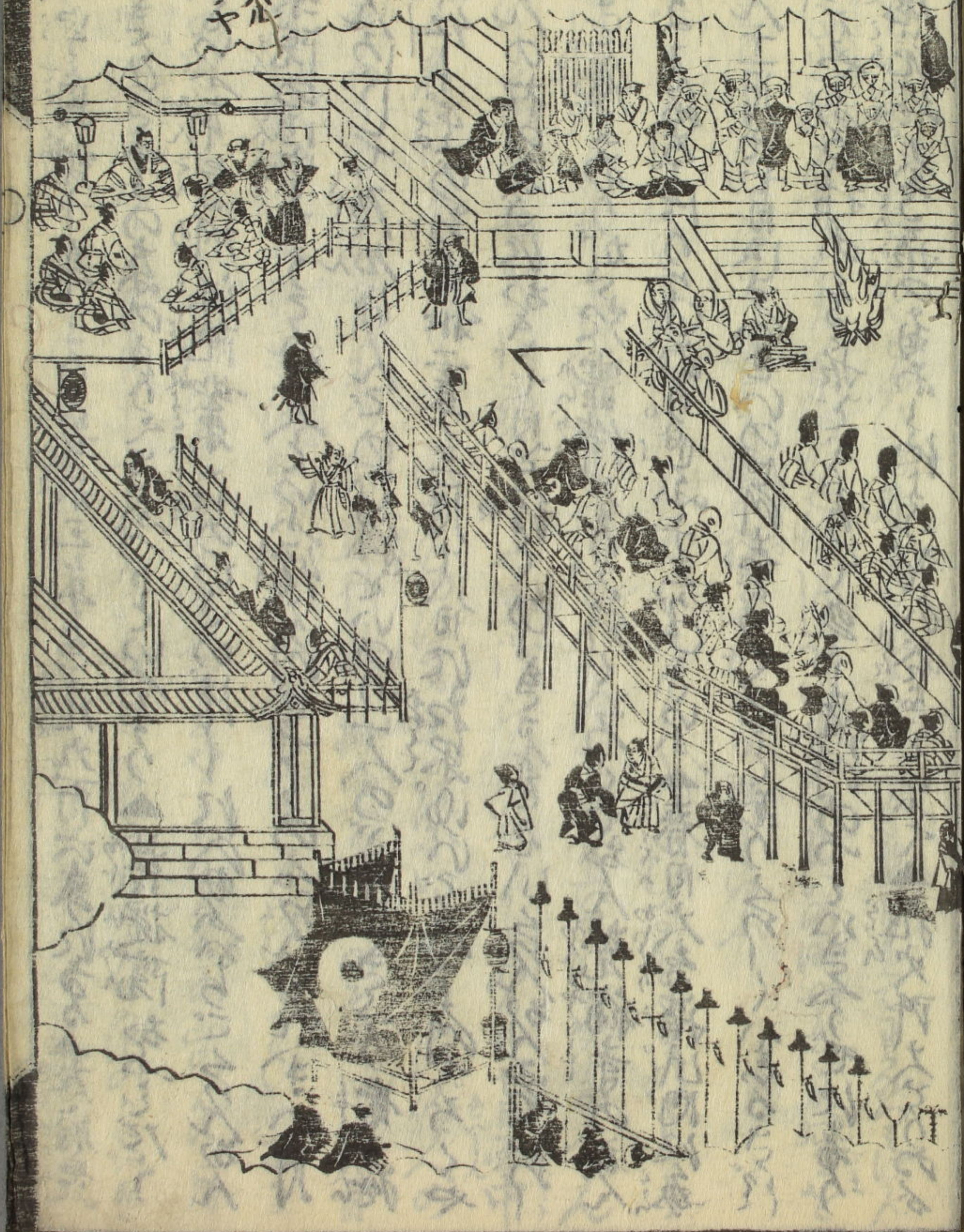
▲南大門 二王ありい前うそ毎年二月七日より十日に新説

に元の後者おはむ。天下泰平国土安全の周廻へ清和天皇の

千屋文庫

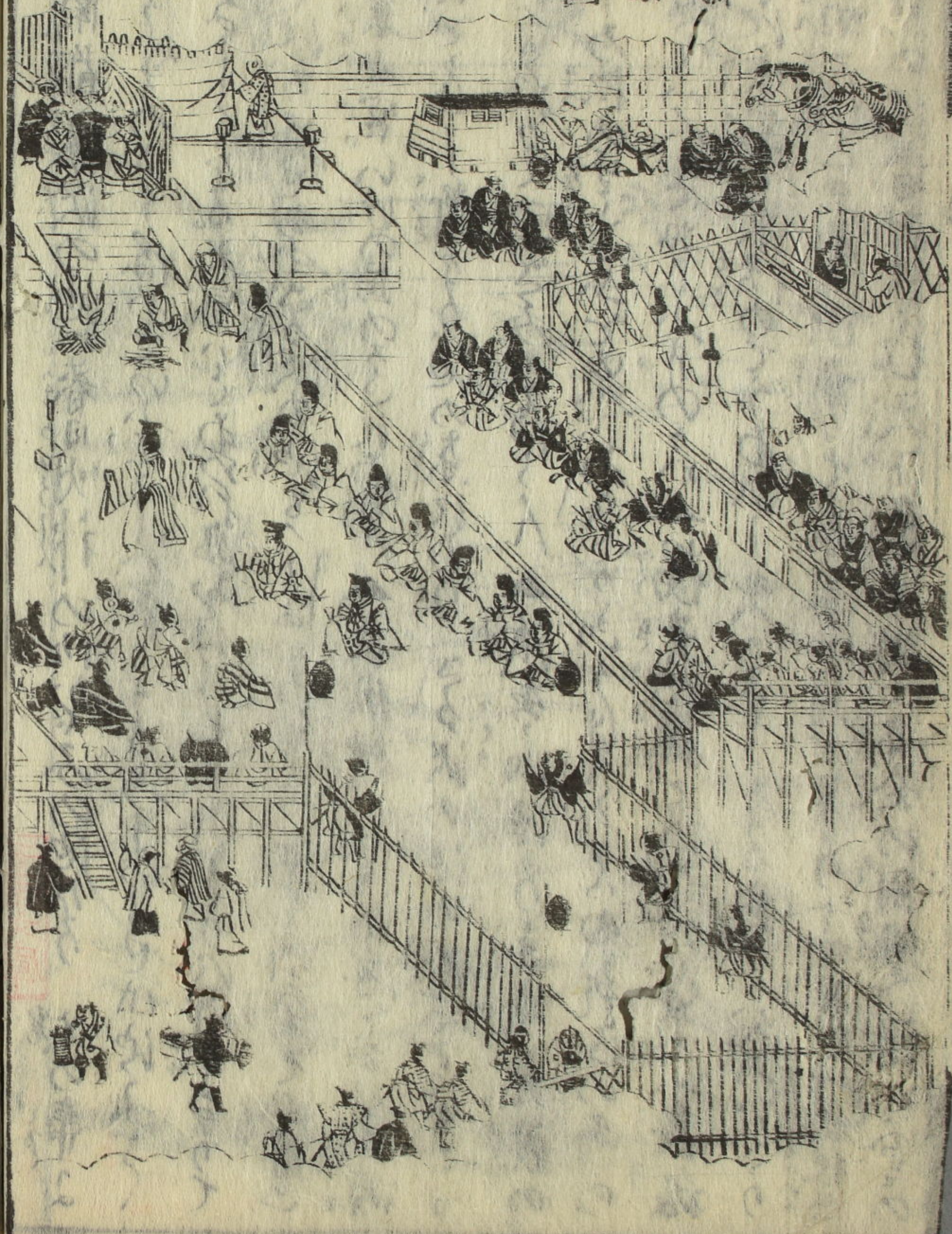
ガコ
クヤ

福寺南大門



南都興

新能圖

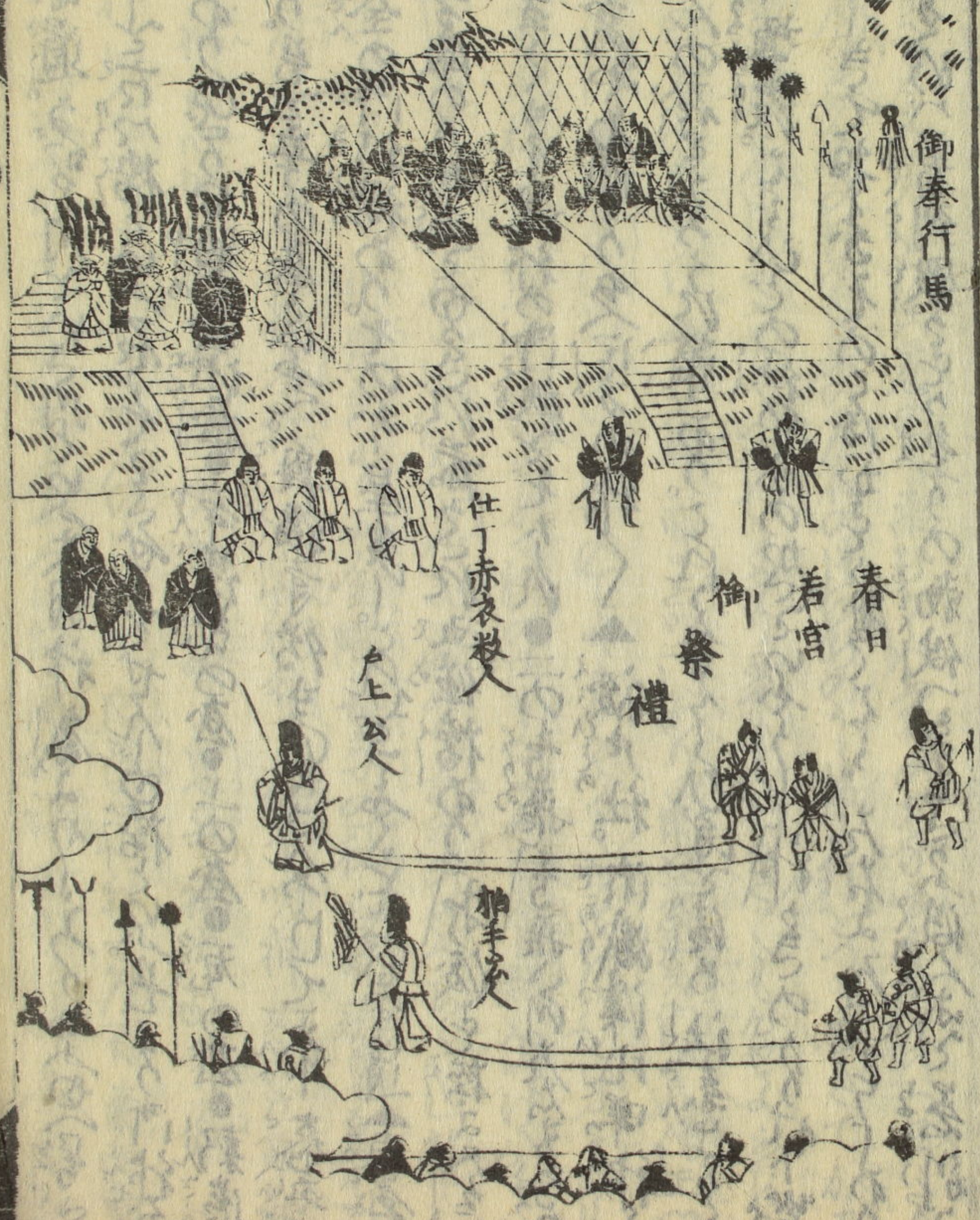


治守貞觀十年より安永三年迄凡九百六年に於る ▲左府吏
やうきひさつうの末のありこころづつといふなり ▲菩提院おきだう
ともいふ年寺河添院おきだのたしにいふなりとらふらん
一桑院の治守とらふらんといふ縁ふせせうのらんらん月
さんらうしてたがけんごのむ縁といふ。二人のどけきとらふ
給仕一。そのうち長和二年三月十八日にね果ゆいせんふでろくや
おんのねのあざにむ。七日と経てひききんをいふらんおんて
まこと後まわりがた靈佛なり。くわくわくやおん梵福寺の多人
さくよんもる。はりのむのむせふ十三日といふ ▲春日大を拾い地に
移入十月廿七日はさくしのせもさくしんくいのありらんくはるさく
らうらやめる神のきも拾とらうてさくしんくいのつこきさくせにあり
▲尾花谷大を拾の南あり池よりたふ谷とていふ ▲飛火所大とりのめ
おとしさくかきさくのものひの神のりおとるよ今縁もてらふらんげん
▲さくせ橋大とりのめり末のたしとらふらんくわくわくさくせと
けとらふらんくわくわく。昔より長社までかきさくせとらふ
▲斗とらふらんくわくわく。昔より長社までかきさくせとらふ
▲神後所毎年十月ふ長社のほてんをたてはせむ日にらふらん
くわくわくやきめありは後とらふらんくわくわく。あり廿七日中
大小名よりありらふらんくわくわく。あり廿七日中
▲舞あり。いふあり。そのら選陣神おきだのどく。は廿八日
四社の縁あり。 ▲所守池おきだのら後とらふらんくわくわく。あり
池のたしとらふらんくわくわく。あり廿七日中
▲雲清海おきだのら後とらふらんくわくわく。あり廿七日中
くわくわく。あり廿七日中

おとしさくかきさくのものひの神のりおとるよ今縁もてらふらんげん
▲さくせ橋大とりのめり末のたしとらふらんくわくわくさくせと
けとらふらんくわくわく。昔より長社までかきさくせとらふ
▲斗とらふらんくわくわく。昔より長社までかきさくせとらふ
▲神後所毎年十月ふ長社のほてんをたてはせむ日にらふらん
くわくわくやきめありは後とらふらんくわくわく。あり廿七日中
大小名よりありらふらんくわくわく。あり廿七日中
▲舞あり。いふあり。そのら選陣神おきだのどく。は廿八日
四社の縁あり。 ▲所守池おきだのら後とらふらんくわくわく。あり
池のたしとらふらんくわくわく。あり廿七日中
▲雲清海おきだのら後とらふらんくわくわく。あり廿七日中
くわくわく。あり廿七日中

御奉行

御奉行馬



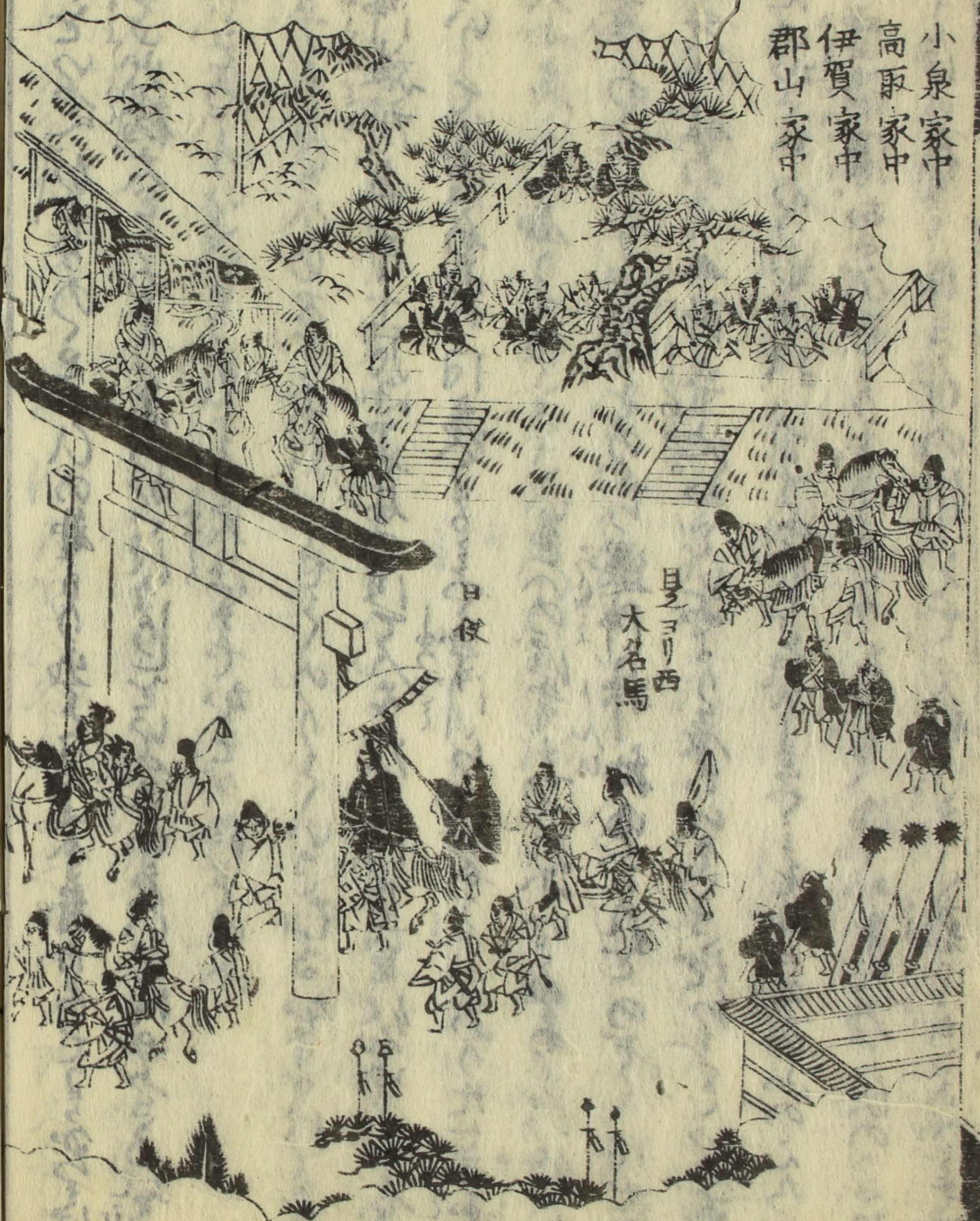
仕丁赤衣教人

戸上公人

春日 若宮 御祭禮

拍手公人

小泉家中
高取家中
伊賀家中
郡山家中

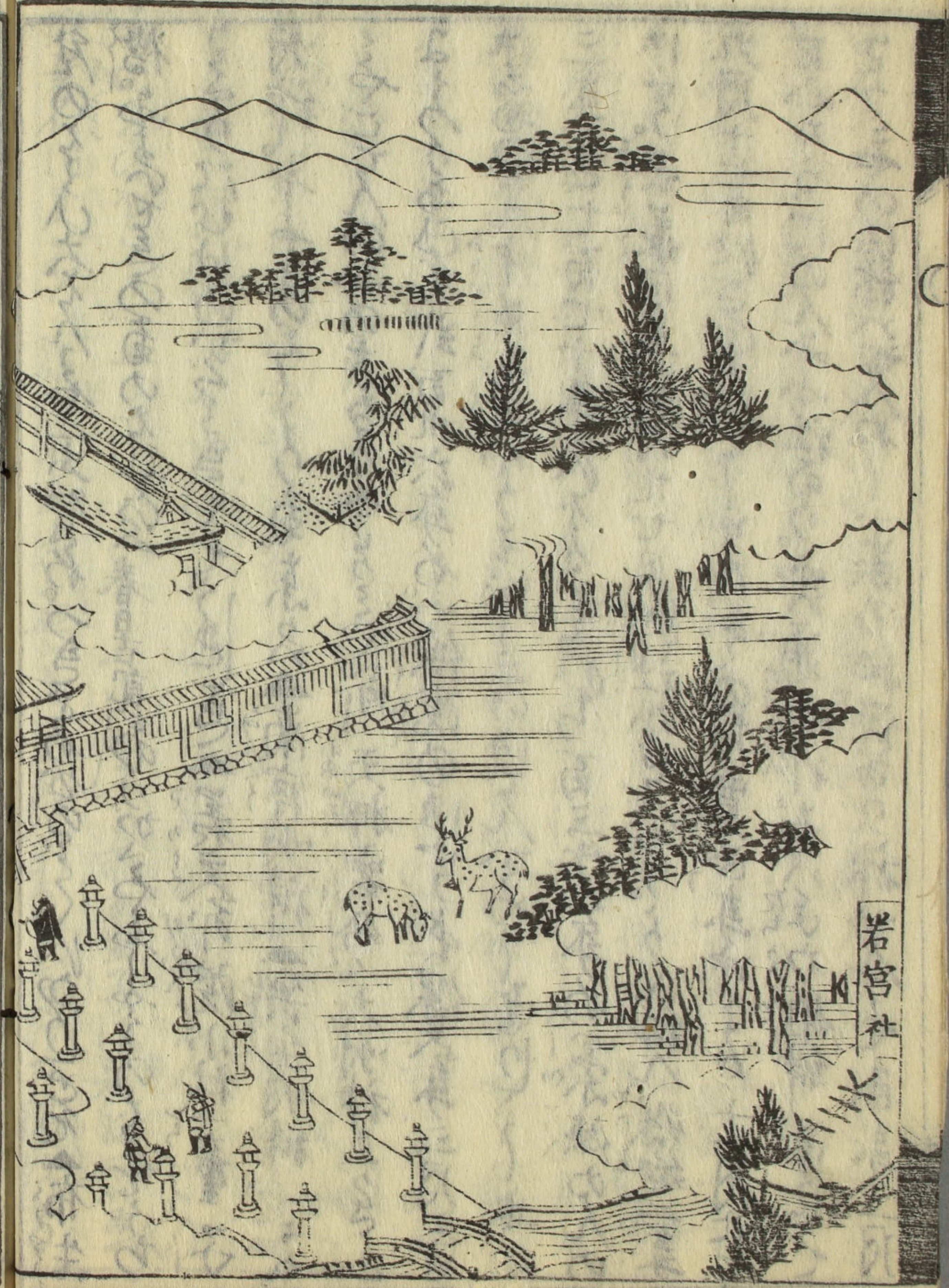
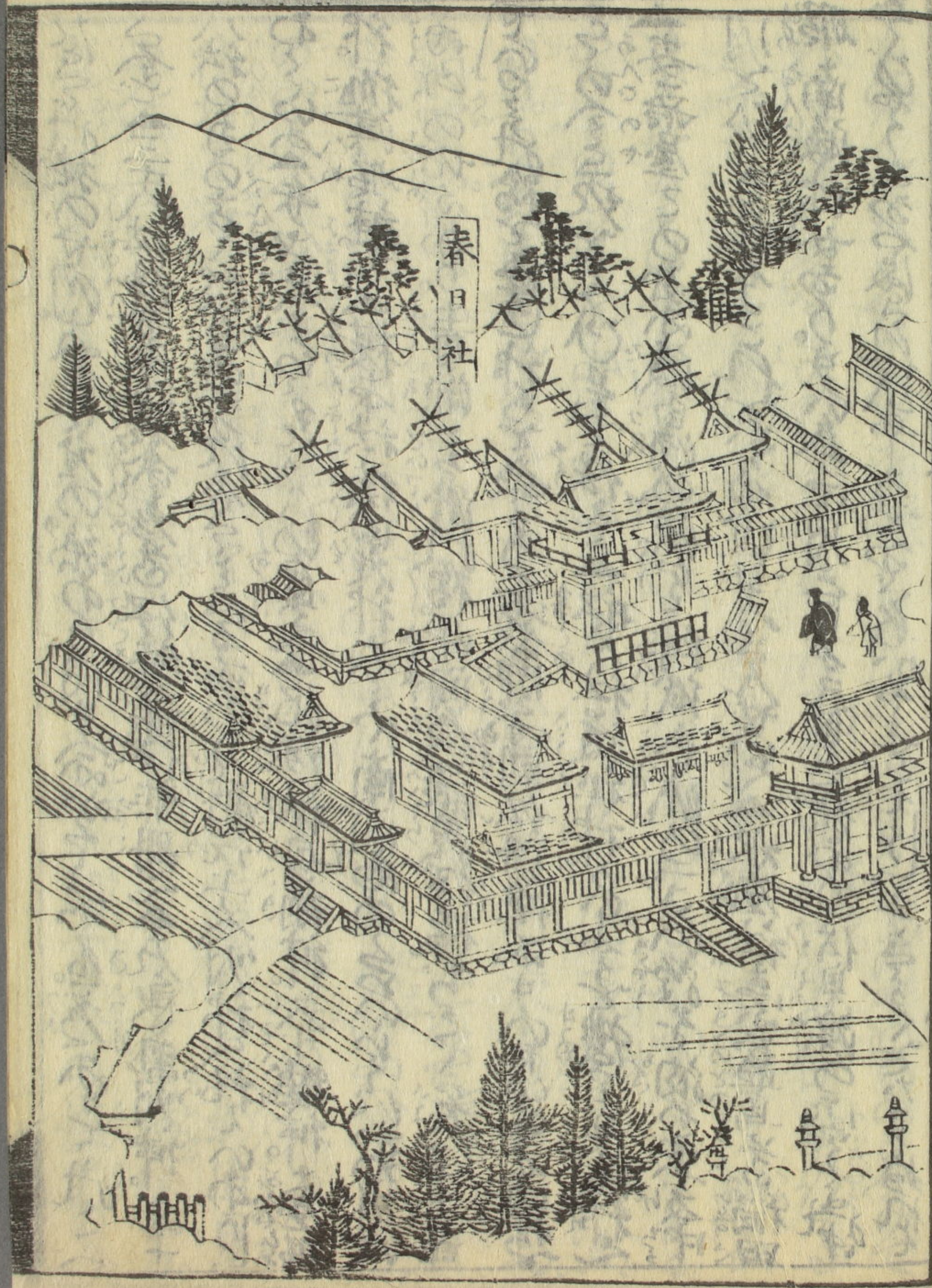


目三ノ西
大名馬

日使

▲蘇道。さび川といひ川といひ大明神蘇あり。うりぬふの(号)あり。
板とと古の橋といふなり。そとせんとせんとせんとせんと。是より所社あり。
二乃ありひびりい。西三在地蔵。本漢義の在。上の在。瓦の在。新造の
在あり。もと寺の在といふ。奥福寺傍まの白さんりして。今平國
土安全の所行練あり。その外屋ま。これととやと。右平道車蓋殿
こころぬのの物ぶとぬら。前これ五位橋あり。お後と橋又又この
らとまこくまそ。社神の所練とそたれ。二の在。飛も飛。河たももさか
れ。るあれや。おしりあ。に方の社く。▲坂戸社。濃濃津比咩社と
社七人の在。とろろに幣あり。これととん。ひを。清り社。素や。か
▲神垣。は。い。どの社の在。のか。と。さ。う。一。社。多。この。の。り。れ。下。紫。六
ら。り。一。ま。て。お。ま。か。そ。の。か。と。う。世。と。ん。ら。た。な。ま。ら。二。と。ら。り。り。
右の方。ひ。び。着。到。殿。と。と。う。ま。り。の。物。使。つ。き。ま。ら。ぬ。役。人。お。と。名。別。は

のせうとをう。た。と。び。ば。殿。の。も。飛。じ。う。か。あ。ら。の。そ。か。候。ま。な。れ。ば。号。あり。
そ。は。殿。ま。と。そ。の。ち。い。も。飛。の。た。右。の。は。ら。の。う。板。釘。と。つ。ぬ。さ。て。か。乃
あ。ら。の。か。り。と。ぬ。り。し。て。ぶ。く。つ。は。と。あり。ま。ら。ぶ。つ。さ。く。も。か。ま。ま。あ。ら。乃
この。の。と。か。の。ま。う。げ。▲白。藤。西。三。つ。に。あり。南。八。雲。門。は。正。門。
尖。門。侍。門。▲所。在。流。川。と。い。う。門。と。今。て。お。り。あ。る。く。や。を。死。川。と。い。ふ。こ。し
や。流。き。あ。が。れ。い。こ。そ。た。て。か。も。ま。あ。る。社。の。は。ま。い。よ。▲直。會。殿。わ。つ。け。は。う。と
他。を。し。し。う。八。海。を。い。ふ。ひ。ま。う。び。は。殿。あり。あ。ら。の。せ。ら。ら。し。幣。を
た。て。ま。う。と。と。い。ふ。神。樂。所。あり。▲金。剛。臺。子。の。社。伊。勢。諸。尊。の。一。門
と。い。て。た。び。の。ま。ち。こ。▲橋。本。社。三。見。石。祓。命。摺。奉。明。神。大。山。と。吹。神
依。軍。神。田。心。姫。海。本。明。神。大。物。毛。命。粟。幸。社。火。取。芥。命。八
雷。神。り。つ。も。も。大。ま。や。と。て。人。の。じ。ろ。こ。内。院。は。小。社。二。座。有。南。西。向。ハ
た。ら。い。と。の。社。の。方。ひ。ら。い。七。人。志。人。註。神。風。社。社。立。田。は。社。三。三。注。殿



法華堂羅刹院金澤寺世小三月堂といふ天平九年用山良
新傍画々せとていふ遺言有来事にありといふ水火未の難
本寺の不空羅刹院世青妙の良兼傍信の神代照士日光月光
梵天帝釈に天王の神基并の他面はづの派勤并の良兼傍自
他の意彌佛地藏并の弘法大師不動明王の勤操傍信の神代は
のほはる月良正并大照并自惣文の神と榮一の天平十二年聖
文の二十の内をさうて寺堂にあつて彰羅の書祥大延と修
華嚴経と禱をほし不兼書にあびき本寺の眉回より令色の雲と
殺らぬの帝威威のあつては良兼傍信の初今初十六丈の毘盧
舎那の号像と造る初て大伽藍と建之東海は高寺の初
毒場結護必成の勝跡の後等身の執令對神へ秘仏の良
兼傍の本寺靈験は勝迹と云々年中平の將門亂の時信像

大なる轉と変化し將門とされは眞佛よりして信は將門の信とほし
故の世の人降の宮と号稱して信仰神にあつて是の本報記并
白河院神願記等ふとあり三月堂本寺報世の良兼傍信
三年十月春の中和善なる寺のいふは川の矢とてその内の人良兼傍
信禮と十万人のけいといふといふともあるあり。まはる神人多く
かまふ法とて申はる信とてある志氣信とて人の報喜あつて
じんはま一だといふかやらのいふ。信といふて教信せば一
あつてといふとこれとていふいふは後あたはは信とていふ
そつていふとて信とていふいふといふいふ。まはる信とていふ
うて信といふいふかといふといふ信といふといふの十三面
らく山かむらのかい信とていふ別考きいひのりかひの信といふ
あつてといふの年二月報世古日信とて信といふ信といふ
あつてといふの年二月報世古日信とて信といふ信といふ



あまのついで堂

大佛了り



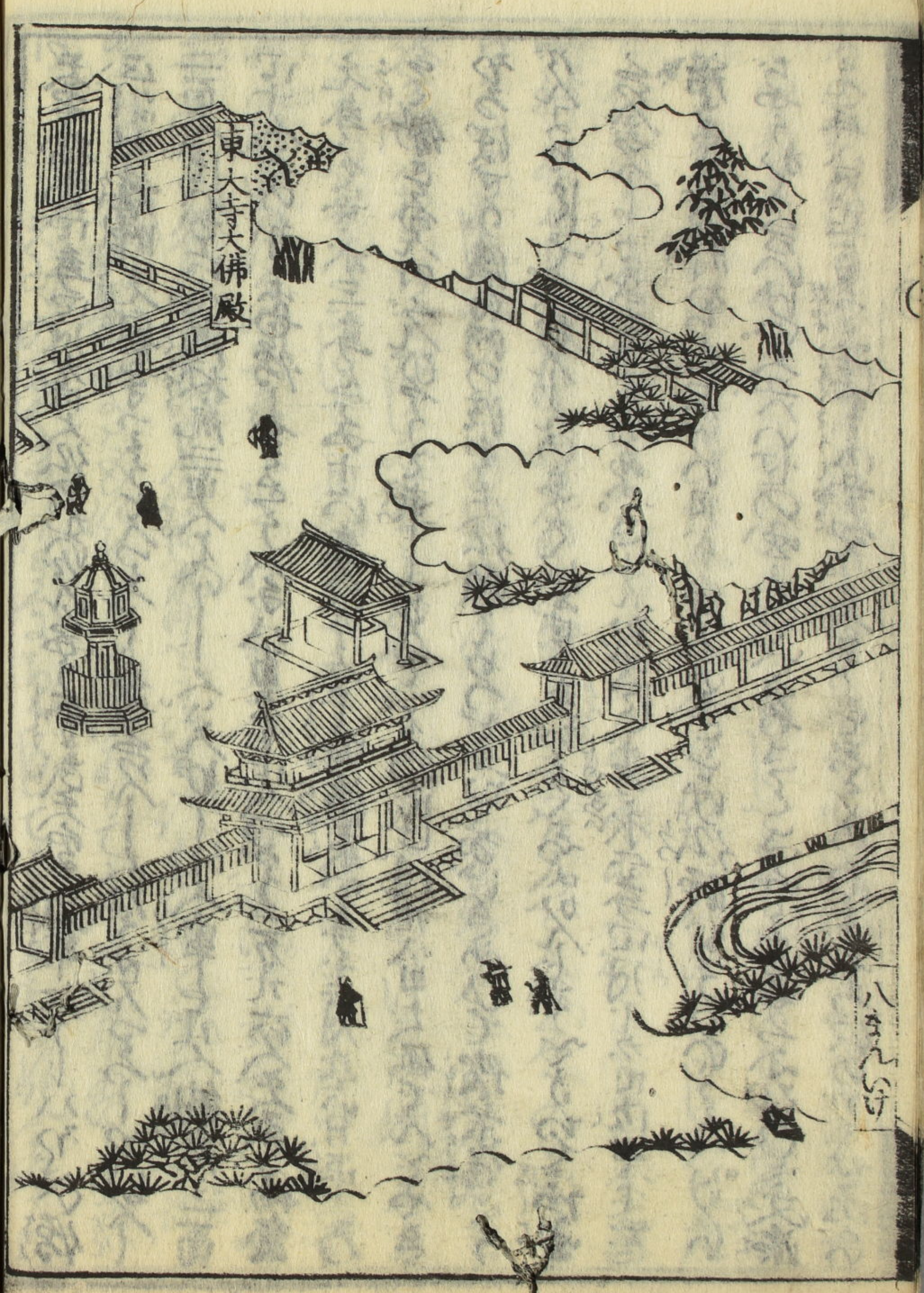
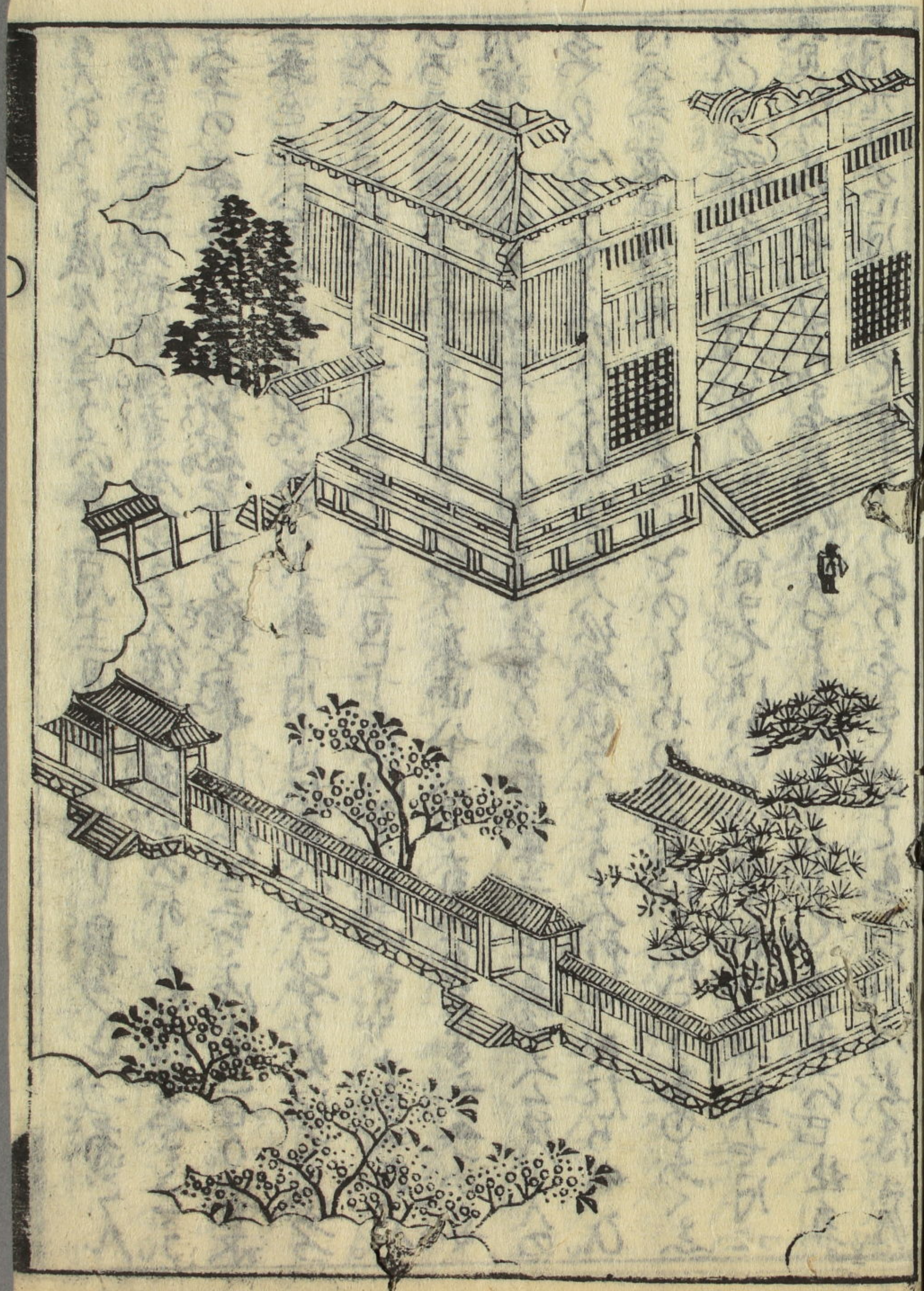
二月堂

らふん松

善公堂

八咫文社

石のけ堂



本神たり ▲擬子神も多しといひてなるもびんとし川のはら
▲車橋みどり池の西よりいふなりと云ふ事ありし事あり
くもつて終てぬのむここそあそ東のじし ▲雲雲坂こころの橋
おのふ坂よりいふ事あり村の東にやまのり坂ありて
是かこゝに擬してさうがんにいふのうてはし ▲興福寺の東の川に
たの川にさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
はら川の東よりいふ事ありてさうがんにいふ事あり
おもへはらをさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
かゝるに擬してさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
▲食堂本ぞん中もいふ事ありてさうがんにいふ事あり
二つありては海にのほろりともいふ事ありてさうがんにいふ事あり
と終ていふ事あり。和州東中にもいふ事ありてさうがんにいふ事あり

▲東金堂本ぞん中にもいふ事ありてさうがんにいふ事あり
たの中にも天王三神と申す事ありてさうがんにいふ事あり
天宮にもいふ事ありてさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
は堂のじろに令伯の擬してさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
八年十月にもいふ事ありてさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
さる池の池ありてさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
東やと申す事ありてさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
は月ともいふ事ありてさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
んもいふ事ありてさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
を神院のほろりともいふ事ありてさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり
は川の方にもいふ事あり ▲中門にもいふ事ありてさうがんにいふ事あり
三つありてさうがんにいふ事ありてさうがんにいふ事あり

佐保山眉間寺支邊山八皇子二十代聖武天皇
 所行修徳の同養をり天皇東大寺大仏殿中東内河は保山法務
 の異化たるは母公藤原の居宮の法流は執詔ありて伽藍と造
 業一平堂中より河弥陀如来八別帝侍者なる兼師光慈如來ありて
 行意并に彫刻之初の眺る寺と号は法皇皇帝此山に侍は業内遠
 見宜かり故眺望寺と勅額獨之給し長寛年中村上八皇子侍
 法一箱の帝は化人現し眉間より光の夜兼定明寺有て化に其
 跡の舍利法粒ありし由速く奏聞し及より帝奇持の事感
 感ありて眉間法光の瑞相と云眉間寺と勅額と獨に聖武
 皇帝八別帝の化人なりといひ及より皇の星をねと流しらす
 事徳不折かる由八國の凶事ありんし及よりは帝陵あり
 と記せし是より行基菩薩は羅門傍に良講ありて

の下し文殊菩薩賢弥勒并の表作して四聖同時出世
 佛法の興衰実なる宗一なる事ありて子殿
 八百年は不建物多寶塔欢喜堂等あり又六百
 年と縁の縁は津路の聖山ありて一妻六本縁起圖

一 ぐそく
 一 ささげ
 一 海んちう
 一 うらら
 一 右のあ
 一 宝曆四甲戌年
 一 天保十二辛丑十月吉日
 一 南都大佛西門前
 一 繪圖屋庄八版

